

医学モクリット

NO.12

民衆同 市大支部 医学部班

教員会は空疎なインテリゲンチヤ的無駄話を止め 直ちに医局解体の具体化を

▽医学部の徹底的民主的改革を先進的に斗っている全医学部和成員の皆さん、我々の斗いはハゲ目を通さるものとしてにもみみわつず医局解体の具体的内容を何ら獲得していない。我々はこの事態を科学的に見つめ、斗争の更なる発展をめぐり前進しなければならぬ。再度我々は具体的内容を明示し教員会が直ちに医局解体の具体化を実施することを要求する。

▽教員会が医局解体に向けての具体的内容に一切手をつけず、病院ゼネストの方向へ大きく歩みだしていることは、現時点で市議会民衆の思惑にはまりかねない重大な誤りであり、自らの口和目進をスローナ化したものにすぎない。このことは我々を苦しめる必要がなくなる。なぜなら医局解体を具体化しないといことは、取も直さず、教員会として直接彼等自身の地位をおびやなされる心配がないということであり、医局解体という一戸困難な斗争をかうことはネグレクトで済ませるのみである。▽現時点で我々はいかなる斗争をくめば初めて政府にとって打撃となるかを我々自身は真剣に考へてみる必要がある。

▽教員会の意識を急即ち、反体制的意識を教員会全体にたたき込み、教員会全体を反独山民主主義の立場にたて直すのである。我々、我々、我々のみで闘いやるのではなく、明らかに下部組織に主要打撃を与えようことを通してのみ意識改革は語られるべきである。故に教員・無給医の一部に与えられるものに意識改革させるにやむを得ない。我々はこの闘い、誠にも本末顛倒である、政

府独山に何の痛痒も与えない。

▽又教員会、無給医の中に極めずチヤリの発想があることを指摘したい。即ちこうである。「我々の斗争は、教授を病院から追いだすみ、さもなくば我々が病院においなくなるもの二つに一つである。だから我々は徹底的に自己の存在をなけて斗うのである。」と。この発想の根底にはエゴがのびている。彼等にとっては医局解体の具体的スローナはつまらなく思えつゝ、医斗争の停滞の中で、一戸のあせりを感じ、戦術のエスカレーター(病院ゼネスト)の升が民主的改革の展望を前くものに見えてくるのである。彼等のチヤリ急進主義的発想に基づく斗争は、必然的に劣弱者(看護婦、従業員、学生)の支持を獲得できないうてである。

▽反独山の器に医学部をするため、その一環として医局解体があり、医学部の民主的改革があるのである。我々の斗争を根本的革命的質族の一揆王々に矮小化してはならぬ。医学部に集う病根を悪く、強ければ、一戸地道な構構の医局解体運動を展開することが第一義である。▽我々は医局解体に向けて次の具体的スローナを教員会が直ちに実施にうつすことを強く要求する。

《スローナ》

- 1 臨床部長会議を解体し、教員と無給医との病院管理運営委員会を設置し、医にのる病院管理運営委員会を設置し、
- 2 関連病院の人事支配粉砕(公開募集制と研究所への権限委託)
- 3 博士号 ボイコット・返上せよ
- 4 製薬会社との癒着粉砕、予算公開
- 5 無給医を全員有給化せよ
- 6 内科外科は新診療体制を築き実現せよ
- 7 差額タックス増徴の運動に上りて